

2021 年度 グローバル化 FD オンラインランチミーティング part I

「国際的な研究について理解を深める教育とは」活動報告

グローバル教育院

日時：2020年7月2日(金) 12:05~12:55

形態：オンライン Zoom ミーティング

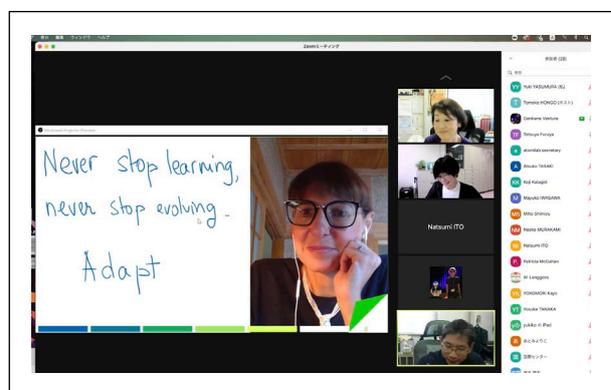
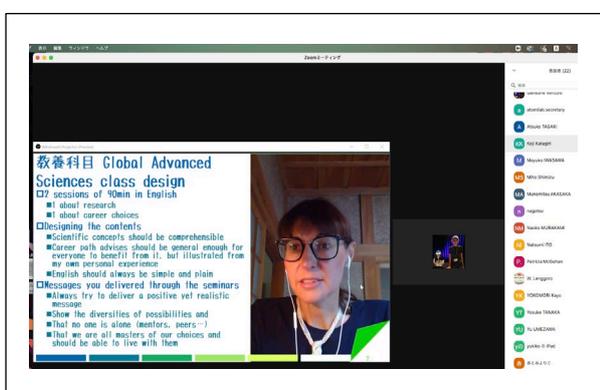
概要：「グローバル先端科目」を題材に「国際的な研究について理解を深める教育」について考える

参加者：本学教職員 24 名

情報提供者：

Gentiane Venture 教授（工学研究院先端機械システム部門）

安村友紀講師（グローバル教育院）



オンライングローバル化 FD ランチミーティングの様子

コロナ禍の中でフィジカルな国際交流ができない中、どのような工夫をして学生の国際的な研究に対する視野を広げる教育を展開していくかについて活発な議論が行われた。

【概要】

グローバル先端科目の目的・概要（安村先生）

2019 年度から開設された教養科目・グローバル展開科目のひとつである「グローバル先端科目」について目的・概要の説明があった。メイン講師による授業の前に橋渡的な事前授業を実施している点が特徴的。

昨年度実施された授業事例の紹介（Venture 先生）

コロナ禍であってもオンライン環境を上手く活用することで、国際的な研究を紹介する授業が可能になる。学生を英語での授業に積極的に参加させる工夫について事例を基に具体的な紹介があった。また、パワーポイントや JamBoard (google)、ホワイトボード (Microsoft) に手書きで書き込みを行う方法、OBS を利用してライブの講師映像を講義資料に埋め込み non-verbal language を使いながら説明する方法、字幕機能を使う方法などのオンライン授業ならではのツールについても情報共有があった。

参加者のアンケートから(抜粋)

◆FD を通してどのような気づきがあったか

・オンラインで役に立つ機能（OBS など）をどんどん使用したい。
・OBS を用いた授業工夫に感銘を受けました
・The positivity was wonderful! Sharing information about tools and ideas - very useful!! Totally agree - we ALL, teachers too, need to keep learning!
・オンライン授業ツールについて。ベンチャー先生が考えて工夫していること。
・学生の関心を引き出し後押しする具体的な工夫をお聞き出来て勉強になりました。同時に、英語でも日本語の講義でも本質の部分では同じと思った次第です。
・It was nice to discuss and share with others
・手書きすることによる視覚的なイメージや時間的余裕が学生にとっては有益であること、様々なツールを使って Interaction を充実化させること、transcript 機能を使うことなどは、実践してみたいと思います。
・学生の国際的な研究理解の力を高めるにあたっては、あわせて基礎的な英語表現力を高める必要があるのではないかと考えました。
・The online tools that Venture-sensei uses are quite useful. I learned that she conducts her class using combination of these tools to keep the class very not only informative but also interactive and engaging. Also I noticed the effort and passion she puts into her lecture corresponds students' motivation and involvement for their research.
・具体的なオンラインツールの使い方や有用性について。また、実際の運用の紹介もあり、それぞれの先生が工夫されている実態がわかり非常にためになりました。
・ベンチャー先生の講義の中で、Technical term を使う（講義内で言葉の意味を説明する）というコメントがありました。難しい単語はなるべく避けていますが、科学的に標準で使用される用語はそのまま講義で取り上げる&説明をする、という点に感銘を受けました。
・Zoom の音声自動キャプションは知らなかったが有益だと思う。
・安村先生、Venture 先生のご講演ともに、online を活用した授業のノウハウについて、大変有意義なご講演でした。誠にありがとうございました。ご紹介された授業の手法について、学生にとってとても効果的なものであると感じました。

◆感想・意見

・受講学生数が多い場合、どのようにインタラクティブな授業運営をしていくのか、気になりました。
・OBS を活用することで、オンラインであっても、逆にオンラインだからこそ、今までよりもさらに進んだ授業ができる可能性があることを改めて認識しました。また、
・Thank YOU all very much!! Looking forward to the Dec. session. AND I agree that having sessions to share methods and tools is very useful!!
・女性の先生の方が多様性を許容し、コミュニケーションを促すのに人間的だと感じました。ジェンダード・イノベーションですね。農工大としても見える化するとよいと思いました。ベンチャー先生のおうちの背景の和風な感じもよかったです。
・お昼休み開催は良いと思いました。
・Thanks for inviting me and organizing!

・Venture 先生のお話もとても勉強になりましたが、他の先生方からのご意見や質問も大変参考になりました。もっと多くの先生方のご発言を促すにはどうしたらいいのだろうと考えさせられています。次回、何か仕掛けられたらと思います。

・とても興味深い内容でした。自身の英語力を高める必要性も強く感じました。

・Thank you for organizing such a great session. I always learn a lot. Depending on the contents of the session and time constraints, the participants may enjoy small group talk to exchange their experience and thoughts. Thank you again!

・上記の具体的なサポートツールや使い方について、ウェブサイトなどで今回の参加者以外の方々にも G 教育院 HP の活用も含めて周知できると感謝されるように思いました。また、個々の先生方のグローバル視点、コミュニケーション、オンライン講義についてのフィロソフィーが聞けて本当に有意義な時間でした。ありがとうございました。

・今後、オンライン講義やオンライン+対面の講義は、続いていくと考えられるので、今回紹介されたような Caption の活用や OBS などの技術的 Tips を共有できる機会があるととてもありがたいと思いました。

・オンライン授業で[英文講読]の授業を担当しており、オンライン授業の中で学生が motivation を維持して取り組んでもらえるように工夫はしているつもりですが、長時間の online 授業ですと一部の学生には(特に英語が得意でない)大変なようです。online 授業において、学生の motivation を維持するための tips などありましたら機会がありましたらお伺いしたいと存じます。

Thank you for sharing some "tools" for educating students.

2021 年度 グローバル化 FD オンラインランチミーティング part 2 「国際的な研究について理解を深める教育とは」活動報告

グローバル教育院

日時：2021 年 12 月 3 日(金) 12:05~12:55

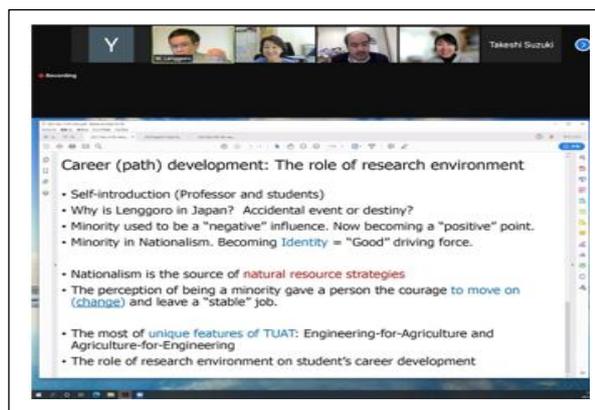
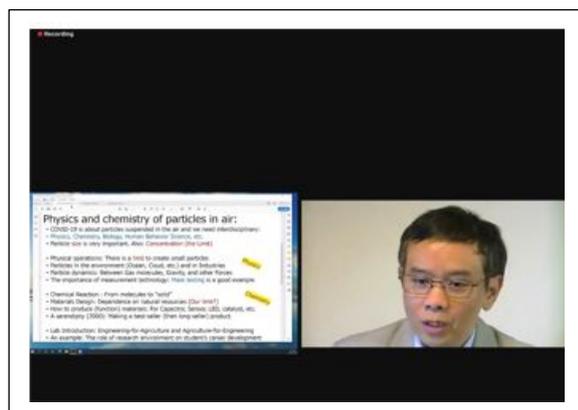
形態：オンライン Zoom ミーティング

概要：「グローバル先端科目」を題材に「国際的な研究について理解を深める教育」について考える

参加者：本学教職員 18 名

情報提供者： WULED LENGGORO 教授（工学研究院 応用化学部門 化学物理工学科）

安村友紀講師（グローバル教育院）



オンライングローバル化 FD ランチミーティングの様子

コロナ禍の中でフィジカルな国際交流ができない中、どのような工夫をして学生の国際的な研究に対する視野を広げる教育を展開するかについて議論が行われた。

【概要】

グローバル先端科目の目的・概要（安村先生）

2019 年度から開設された教養科目・グローバル展開科目のひとつである「グローバル先端科目」について目的・概要の説明があった。外国人研究者の研究やキャリアに関する英語授業の前に、橋渡的に実施されている事前授業についても具体例が紹介された。

本年度実施された授業事例の紹介（Lenggoro 先生）

化学物理工学の専門的な知識をコロナウィルスの性質など現実の生活の中で触れるものを通して英語で学ぶさまざまな工夫が紹介された。国際的な研究環境を学ぶだけでなく、学生ひとりひとりが将来、どのようなキャリアを築いていけるかを考えることができる取り組みも提示された。日本ではマイノリティである外国人教員であることを強みにして、Lenggoro 先生ご自身がどのようにしてキャリアを形成されたかという体験談も授業で触れられていた。また、研究室において留学生と日本人学生が協働し、多様な観点からディスカッションができる環境づくりが重要であるという点も強調されていた。さらに、学生の興味やイニシアティブが起点となって研究室間の共同研究や農工融合研究に発展し、それが農工大の強みを活かすことになるという点も議論された。

以上